



観測装置前で

世界のあしたが見えるまち。

国立研究開発法人 防災科学技術研究所
社会防災システム研究部門 特別研究員

Asako Iwaki 岩城(浅野)麻子 さん

東京都出身。京都大学理学部卒業後、同大学院理学研究科で地球惑星科学を専攻し博士号(理学)取得。防災科学技術研究所に入所し、現在は社会防災システム研究部門の特別研究員として地震ハザード・リスク評価の研究を行う。

つくばで輝く
女性研究者

断層や海域の地震による

ド・リスク評価の元となる研究開発を行う。「活

高精度データ解析で 地震対策に取り組む

揺れの予測精度を高めた。また、現状では十分に

分かついていないことも、可能性として評価に取り入

れ、世界的にも地震が多発する日本の地震研究は注目され、社会全体の災害対策に役立つ研究活動が期待されている。

《自然現象への興味》
幼少期から都内で育った。もともと理系科目が得意で大学は理学部に進学。大学入学後、気象などの自然現象を数学や物理で説明する学問に興味を湧き、地球の物理現象を総合的に学ぶ地球物理学分野を専攻。「台風の調査のため講義を休止し、現場に向かった教授の姿に憧れました」。自らの進む道を「防災」に定めた瞬間だった。



活発な息子2人と公園で

大学の3次元地下構造を推定する研究論文で博士号(理学)を取得。「つくばに来たのは2011年

3月の東日本大震災直後で、災害の爪痕や余震がしばらく続いていたのを今でも鮮明に覚えています。想定を遥かに超えた規模の災害が発生した衝撃の中で現職での研究が始まった。関西の大学に勤務する夫も同じ分野の研究者。つくばと関西という遠距離生活だが、互いに研究に関して思いを共有できることも多い。

《つくばの暮らし》
5歳と1歳の男の子の二児の母。「実家の母親の助けや保育園にも恵まれていると思います。大変ですが楽しい毎日です」と笑顔。関西に住む夫も週末にはつくばで家族団らんを楽しむ。「自然が豊かでゆったりした環境。実は夫もつくばが大好きなんですよ」。



共同研究者との打ち合わせ風景

《地震の揺れの解析と予測》
防災科学技術研究所が管理運営する世界最大規模の地震観測網による観測データを解析し、震源の破壊過程や地震波が地下を伝わる過程を分析。そこから将来発生する地震に対する予測モデルを立て、数値シミュレーションによって大地震発生時の地面の揺れ(強震動)を高精度に予測することで地震ハザード・リスク評価の元となる研究開発を行う。「活断層や海域の地震による